

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

1. 2. 3. 4. その他事業者

20 レジリエンス教育を行っている例

事例番号 151

「ぼうさい探検隊」及び「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」

■取組主体 一般社団法人 日本損害保険協会
■業種 金融業、保険業

■取組の実施地域 全国
■取組関連 URL <http://www.sonpo.or.jp/protection/bousai/index.html>

取組の概要

子どもたちがマップをまとめる

- 阪神・淡路大震災を教訓に、防災・安全教育の必要性が高まり、子どもたちが楽しみながらまちにある防災・防犯・交通安全に関する施設や設備などを見て回り、マップにまとめる実践的な安全教育プログラムを作成した。
- マップの作成後は、発表を通して活動を振り返り、学んだことを参加者、地域などで共有することで、子どもたちだけでなく地域の強靱化にも貢献する取組である。



【まち歩きをするぼうさい探検隊】

取組の特徴

楽しみながら、災害への備えや身近な危険について気づきを育む

- 子どもたちがまちを探検し、そこで見た災害への備えや身近な危険について自主的に考え、気づきを得ることができる安全教育プログラムである。
- 平成 16 年度から毎年「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」を実施し、作成したマップを募集している。
- 第 11 回目のマップコンクールとなった平成 26 年度は、47 都道府県の 511 の学校・団体から、過去最多となる 2,261 作品の応募があった。
- 作成したマップを「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」に応募してもらい、地域性・テーマ性、ビジュアル性、提案性、教育効果性の観点で優れた作品に対して表彰している。
- 子どもの視点で「なぜ危ないのか」「どうすれば安全になるか」まで調べ、行政への改善提言や要望を行った結果、実際に危険施設が改善された事例がある。



【第11回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」防災担当大臣賞の作品】

周囲の声

- 「ぼうさい探検隊」のプログラムを通して、子どもたちが自ら防災などに関する施設や設備を見て回り、学んだことを互いに共有し、話し合うことで、防災を自分事として主体的に考える次世代を育成することができる。コンクールの実施により、この地域単位の取組を全国に広げることができたことも大きい。(防災関係団体)